

専修大学卒業生の集い「ホームカミングデー2007」

生田10号館で11月3日(土)に開催

創立130年記念事業の一環として昨年から始まった「専修大学ホームカミングデー」。今年は、3月に完成した生田130年記念館(10号館)をメイン会場に、11月3日(土・祝)・10時から行われる(9時50分からオープニングセレモニー)。当日は、鳳祭開催期間中であり、キャンパスや鳳祭を見学し、各種イベントに参加していただきたいと、事務局では参加を呼びかけている。卒業生にはオリジナルグッズをプレゼントする。主なイベントは次のとおり。



▲昨年のオープニングセレモニー

【歓迎セレモニー&交流会】

13時~15時・親子三代卒業生表彰。馳浩衆議院議員(昭59文)のトークショー。お楽しみ抽選会。司会はNHK横浜放送局の日高治子さん(平11経営)。

【講演会】

経営研究所と共催。11時~12時・河邊捷義氏(コカ・コーラウエストロジスティクス代表取締役社長=昭41経済)「見えない教育」

【専修大学からの「知の発信」展】

10時~16時・21世紀ビジョン「社会知性の開発」の成果である知的資産を発信。
▽卒業生・在学生からの「知の発信」▽産官学及び地域連携▽メディア情報

【展示】

10時~16時▽図書館所蔵の展示—古典への誘い(蜂須賀家旧蔵本を中心に)
▽特別招待卒業年次展—当時の卒業アルバムなどを展示▽専修大学創立者展《特別企画『専修大学創立者物語』(刊行予告)》

【無料法律・税務相談】

13時~16時・専修大学法曹会、専修大学会計人会の協力で、OBの弁護士、税理士が相談に当たる。

【箱根駅伝応援メッセージプロジェクト】

10時~16時・第84回東京箱根間往復大学駅伝競走に出場する、陸上競技部への応援メッセージを募集。

【オリジナルグッズ販売】

10時~16時・Tシャツ、マグカップ、ストラップのほか、校友会オリジナルグッズも販売。

【その他】

在学生が案内するキャンパスツアー、進学相談会、卒業生対象の入学相談会(大学院・法科大学院)など。

※ゼミ・クラス・クラブ・寮などの集まりに教室等を開放します。申し込みは事前に校友課まで。

電話 03(3265)7579、e-mail koyuka@acc.senshu-u.ac.jp

※特別ご招待卒業生として1947(昭22)、57(昭32)、67(昭42)、77(昭52)、87(昭62)、97(平9)年3月の卒業生には案内状を送付しています。記念品を差し上げますので受付で提示してください。

※当日は、8時から17時まで向ヶ丘遊園北口より無料直通バスを運行します。

問い合わせ:ホームカミングデー事務局 電話03(3265)6821(当日=庶務課電話044(911)1239)

米田・福島両教授とゼミ生

「千代田学」に選定

次世代育成・子育て支援プログラム策定に向けて

千代田区が区内の大学を対象に研究を募集した2007年度「千代田学」に、本学から文学部の米田巖(外国地誌学)、福島義和(都市環境学)両教授の提案「次世代育成・子育て支援プログラム策定のための基礎的調査研究」が選ばれた。調査には学部生、大学院生などが参加する。

主宰の米田教授は「『子育て』には住環境が大きく関連してくる。千代田区は夜間人口が少なく、ワーキングプレイスというイメージであるが官公庁、企業は多い。地元住民だけでなく、子育てをしながら通勤してくる人も対象とした集団インタビュー、企業の就業規則の調査などを行う。ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の考えを、行政や企業に定着させるためにも、『子育て支援』、『働き方の改革』といった推進策を提示したい」と展望を話す。



▲展望を語る米田教授<左>と福島教授

事業共担の福島教授は、「7月に行われた川崎都市政策のシンポ(本紙8月号既報)でも発表したが、イギリスでは、住民と行政をつなぐ役割を果たす機関がある。日本でも、大学は教育・研究をする場という位置づけだけではなく、社会に開かれた『子育て』や『防災』といった公共的な役割も果たすべき時代になっている。行政や企業に対して求めているニーズを的確に聞き出し、誰もが住みやすい『社会共同体』を作っていくため、大学が有機的な連携を提示できれば素晴らしい」と抱負を語る。

両教授とも、大学の社会的貢献(USR)が、求められるようになってきている現在、専大の「教育・研究」を社会に還元する絶好の機会であり、調査結果によっては、他都市にも有効な提言ができるとしている。

※調査・研究の進捗(進捗)状況は随時本紙で報告の予定。

連続公開講座「まちに学び、まちを活かす」

商学部教育と地域の諸活動を連携

商学部と商学研究所では、10月から多摩区役所の協力により地域で活動するNPO、ボランティア組織の方などを講師に、連続5回の公開講座「まちに学び、まちを(い)かす」を多摩区役所会議室で開いている。

10月10日の第1回は、多摩区観光推進協議会副会長の横山久寿氏が「多摩区におけるタウンセールス・観光推進の取り組み」をテーマに、都市型観光の歴史や特徴、タウンセールス推進のための地域観光資源の現状と展望について語った＝写真。



▲横山氏

第2回は10月24日、民家園通り商店会相談役・岩野征行氏が「太郎の夢～商店会の発展と新商品開発に込めた思い～」を、第3回は11月7日、のぼりとゆうえん隊副代表の余川辰哉氏が「地域資源を活かしたまちづくり」を話す。定員50人。時間は18時から19時30分。申し込み・問い合わせ：学長室企画課電話044(911)1252



▲多摩区の商店主や専大生が多数参加

都市型観光としての多摩タウンセールスの方向

多摩区役所から委託

商学研究所(上田和勇所長)では、昨年に続き多摩区役所から委託を受け、「都市型観光としての多摩タウンセールスの方向」に関する調査を行っている。

多摩区が重点課題としているタウンセールスについて、地域住民へのインタビュー調査やフィールド調査、専大生へのインタビュー、地域住民との交流会などを通じて、学生の目線から、新たな観光資源の掘り起こしとアピール方法、「モデル観光コース」などの提案を行う予定となっている。

(学) 専修大学松戸高校新理事長に富山尚徳氏



学校法人専修大学松戸高校は、9月28日開催の理事会において、富山尚徳氏(現学校法人専修大学専務理事)＝写真＝を新理事長に選任した。任期は9月28日から2010年3月31日まで。

日本チェーンストア協会協力による「公開講座」開催中

最終回は清水・ライフコーポレーション会長が講義

商学部・商学研究所では、設立40周年を迎える日本チェーンストア協会の協力により、流通業を学ぶ学生や一般の方を対象に全5回の公開講座「チェーンストアと流通イノベーション」を生田キャンパスで開いている。

10月1日の第1回は、同協会専務理事の鈴木善統氏が写真＝が小売業の歴史、協会を取り巻く社会変化への対応などを説明。10月15日には、イオン(株)環境社会貢献部長の上山静一氏が環境問題について講義を行った。11月26日は、業界を牽引(牽引)してきた、ライフコーポレーション代表取締役会長兼CEOの清水信次氏が講義を行う予定。



▽10/29「チェーンストアと食の安全・安心」(講師＝ヤオコー)▽11/12「チェーンストアの経営戦略(I)」(講師＝丸井)▽11/26「チェーンストアの経営戦略(II)」

※18時～19時※申し込み＝本学学生は商学研究所(e-mail info-shk@isc.senshu-u.ac.jp)、専大以外の学生、一般の方は協会ホームページで。

≪専修人の新しい本≫

みんな力 ウェブを味方にする技術

新井 範子 著

インターネットの登場は、生活やビジネスだけではなく、社会を大きく変化させている。企業が情報を持ち、消費者に働きかけるという図式が変化し、フラットな関係となった。そして、瞬時に広がる口コミで、情報の流れ方もまるで変わった。

そして、インターネットが可能にしたのは、コミュニティの新たなカタチである。みんなが情報を交換し、智恵を出し合い、助け合うシステムが出来上がったのだ。たとえば、ネット上の百科事典、ウィキペディアなどを考えてみればわかるだろう。企業も消費者たちと協同して事業を展開することが、次なるビジネスチャンスの開拓となっていくのだ(東洋経済新報社 1600円+税)。

著者(あらい・のりこ) = 経営学部教授。担当は消費者行動論。



長安都市文化と朝鮮・日本

矢野 建一 李 浩 編

本書は、本学と国際交流協定校である中国・西北大学でそれぞれ行われた国際会議での報告、討論の成果と論考をまとめたものである。会議をきっかけに、西北大学が収集した日本の遣唐留学生「井真成」の墓誌についての共同研究プロジェクトを立ち上げ、05年1月に朝日ホールと本学でシンポジウムを開催、日中両国の研究者に大きな衝撃を与えたことは記憶に新しい。

編者も執筆する日中あわせて17本の論文は、歴史・文学・宗教・歴史地理など多岐にわたり、専門分野を超えた共同議論の成果が色濃く反映されている。長安都市文化が古代の朝鮮や日本にもたらした影響を考える際に大いに役立つであろう(汲古書院・本体7000円+税)。

編著者(やの・けんいち) = 文学部長。担当は歴史総合ゼミナールほか。(り・こう) = 西北大学文学学院院長。

